

★ ラインナップ ★

夏の星空

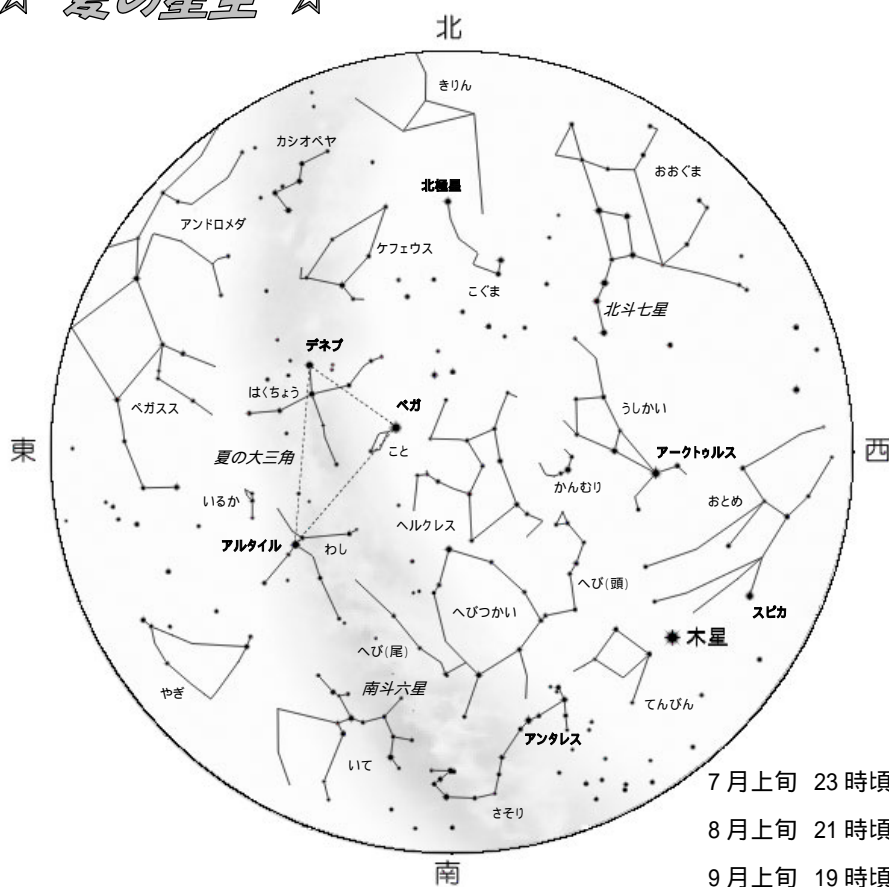
星座ピックアップ 死者をよみがえらせる名医 ~へびつかい座&へび座~

天の川ってなんだろう

星好きの独り言

晴れわたった青い空にモクモクと立ち上る真っ白な入道雲。梅雨が明けると、本格的な夏の空。夜になれば、美しい天の川が流れ、兩岸に輝く七夕の星たちやさそりの姿が描かれた夏の星空が広がってきます。

☆ 夏の星空 ☆



日が暮れると、南西の空にひときわ明るい輝きが目にとまります。太陽系最大の惑星・木星です。今夏、てんびん座にあって、街中の空でもすぐにわかる - 2 等の明るさで見えています。

木星の東で、赤い輝きを見せるのは、さそり座の 1 等星アンタレス。さそり座は、南の空の少し低いところで、明るい星々が大きな S 字をつくれます。背後(東隣)から、ちょうどさそりの心臓のところに輝く星 アンタレスに狙いを定め、弓を引きしぼるいて座は、北斗七星に似た“南斗六星”が目印です。

7月上旬 23 時頃

8月上旬 21 時頃

9月上旬 19 時頃

頭の上のほうを見上げると三つの 1 等星、こと座のベガ、わし座のアルタイル、はくちょう座のデネブが“夏の大大三角”をつくっています。ベガは七夕の織姫星。少し南東に輝くアルタイルが彦星。この二つの七夕の星の間には“天の川”が流れています。その流れのなかを、白鳥が翼を広げ飛んでいます。デネブを含めた星たちがつくる“北十字”と呼ばれる並びから、そんな姿を思い描くことができます。

さて夏休みということもあって、少し夜更かしをしながら、じっくり夏の星空を楽しめる時期でもあります。すると、いつもよりたくさんの流れ星を目にするはず。なかでも注目は、すっかり夏休みの天文イベントとして定着している“ペルセウス座流星群”！ 今年も8月12日～13日にかけてピークとなります。月明かりがあり、条件はやや悪くなりますが、見逃せません。

☆ 星座ピックアップ ☆

死者をよみがえらせる名医 ~へびつかい座&へび座~

もし、死んだ人たちをよみがえらせることができたなら...

へびつかい座として描かれている巨人は、ギリシャ神話では、死者を生き返らせるほどの名医アスクレピオスの姿といわれています。

アスクレピオスは太陽神アポロンの子。

ここで、前号の“からす座”のお話を思い返してみてください。おしゃべりカラスの告げ口を聞いたアポロンは、妻コロニスをその手で殺してしまいます…。実は、このお話には続きがあって、このときコロニスのお腹にはアポロンの子がやどっていました。この子どもこそがアスクレピオスです。気づいたアポロンによって、どうにか救い出され、ケンタウルス族の賢人ケイローン(いて座)のもとで育てられました。そこで医術を教わったアスクレピオスは、やがてギリシャでも一番の名医となり、ついには死者までもよみがえらせてしまう能力をもつほどになります。しかし、この能力は生死の定めを変えてしまう危険なもの。そのため、大神ゼウスに殺されてしまった悲運の持ち主なのです。彼の死後、父アポロンの願いで、医神となって夏の夜空に輝くこととなりました。



へびつかい座とへび座の
星座絵

星座になったアスクレピオスは手にヘビをもち、“へびつかい座”という星座として描かれています。医者なのにヘビって...あんまり関係なさそうですね。しかし古来よりヘビは、脱皮する様子などから生命の象徴と考えられ、医者とヘビとがむすびつけられていたのです。

“へびつかい座”は、さそり座の北で、ラス・アルハゲ(へびつかいの頭)という2等星を頂点に将棋の駒のような五角形をつくる並びです。手にしたヘビが、そこから東西へつづき“へび座”をつくり、へびつかい座によって西に伸びた頭の部分と東の尾の部分の二つにわけられた珍しい星座です。

☆ 天の川ってなんだろう? ☆

夏休み、海や山へ行って夜空を見上げたことはありませんか? たくさんの星たちの間にうっすらと白い雲のようなものが見えて、「あれなんだろう?」と思った人もいるでしょう。そう、これが天の川です。

天の川の名前

世界中でさまざまな呼び方がある「天の川」。日本では中国から伝わった「天河」「天漢」といった言葉が、古くは万葉集などでも使われてきました。西洋の古い神話の中では、神がこぼした「麦の穂」または「真っ白なミルク」という有名なお話があり、英語の「ミルキーウェイ」という呼び名も、このお話が語源となっています。また古代エジプトやメソポタミアでは、実際に大地を流れる大きな川と天に流れる川は繋がっていると

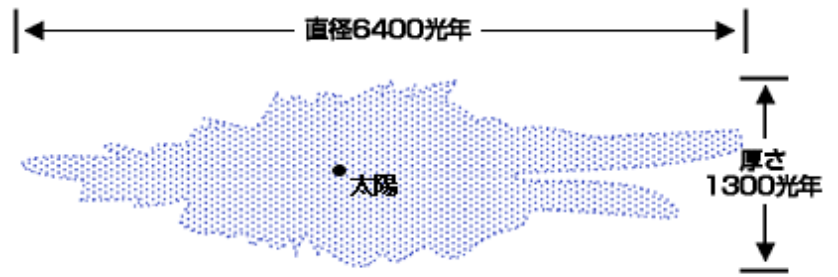
考えられていたため、「天上のナイル」、「天上のユーフラテス」などとも呼ばれていました。ほかにも、動物の姿に例えられたりと、面白いお話がたくさんあるようです。

天の川の正体

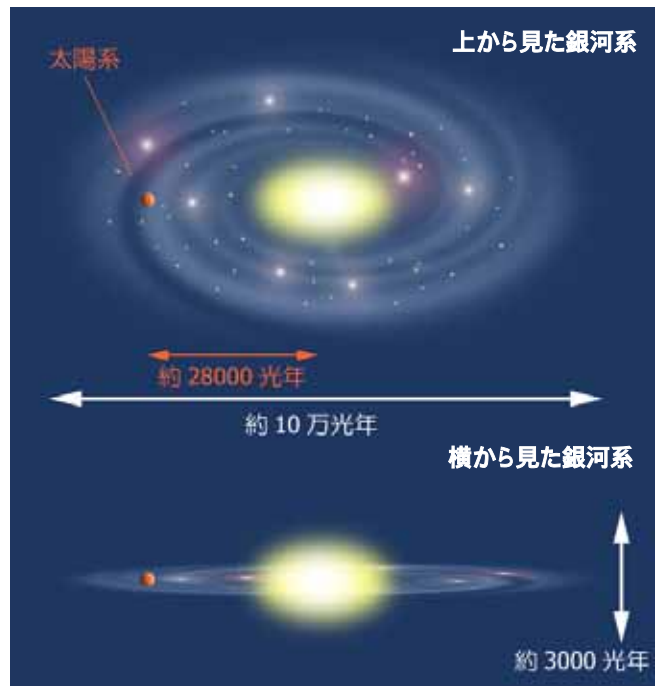
薄い雲のように見える天の川。この正体は、実は無数の星の集まりで、「銀河系」を横から見た姿です。1610年、ガリレオ(伊)は、自作の望遠鏡で、天の川がたくさん星の集まりだということを確認しました。18世紀後半には、ウィリアム・

ハーシェル(英)が天の川の星たちをひとつずつ数えあげ、銀河系の形を描きました。ハーシェルの描いた銀河系は、太陽を中心としたものでしたが、20世紀になってシャプレー(米)はさらに詳しく観測し、太陽は銀河系中心から約5万光年(後に28000光年に訂正)のところにありと発表、これは現在考えられている銀河系の姿にほぼ近いものでした。

夜空で星座を形作る星たちは、恒星と呼ばれ、太陽と同じく自分自身で輝く星たちです。そしてそれらの星たちは渦巻状に集まる星の集団を形作っていると考えられています。これが「銀河系」です。約2000億個もの星の集まりである銀河系は、上から見ると渦巻状に、横から見ると中心部分が膨らんだ円盤状の形をしていると考えられています。ここで、私たちの地球がある太陽系は、銀河系の中心から約28000光年離れた円盤上にあります。このため、地球から銀河系の上下方向を見ると星の数は少なく、逆に横(円盤)方向を見るとたくさんの星が集まって見えるのです。特に銀河系の中心部分はいいて座の方向にあたるので、夏の天の川はひとときわたくさんの星たちが集まって見えています。



ハーシェルの描いた銀河系



天の川を見よう

さて、きれいな天の川はどうしたら見えるでしょう？ 天の川の放つ光はとっても淡いので、街中のように夜空の明るいところでは見ることはできません。けれど、月明かりの少ない日に、山や海など、空気の澄んだできるだけ灯りのない暗い夜空が広がる場所で、じっくり空を眺めてみましょう。目が慣れてきた頃、あなたの目にもすっかり天の川が見えてくるはずですよ！

ところで、天の川の光で自分の影ができる、という話を聞いたことがありますか？ あんなに淡い光で影ができるの？ と不思議に思うかもしれませんが、ホントに灯りひとつないところではそんな体験ができるんだそう。以前、広大な砂漠のど真ん中で素晴らしい星空を見たことがあります。天の川はくっきりと白く浮かび上がり、自分の姿も星明りでうっすら見えているのに、とっても感動したことがありました。街中ではなかなか満天の星空を眺める機会がないのは残念ですが、どこにいてもたくさんの星たちが輝いていることをいつも忘れないでいたいですね。

☆ 星好きの独り言 ☆

新コーナー“星好きの独り言”がスタート！今回の担当は、

は！と書いて『まるは！』さんです。よろしくお願いします。

はじめまして、今回のこのコーナーは私 は！ が担当させていただきます。

どうぞよろしくおねがいします。

さて、うとうしい梅雨もあと少し(?)のがまん。梅雨が明ければいよいよ夏本番、みなさんは夏休みの予定はもうたてましたか？

は！はここ数年ペルセウス座流星群の極大日に合わせて茶臼山に行ってます。

(長野、愛知両県にまたがる山です)

空の条件もかなり良くて天の川もくっきりはっきり見えて思わず「うわぁ～」って叫びたくなる感じです。でも、今年は月のめぐり合わせも良くないし、どうしようかなぁ～って思っているところです。

ということで私 は！ は星見 & プラネタリウム作りが趣味となっています。

プラネタリウム作り！？という人が多いかと思いますが、ここ岡山天文博物館にはアストロクラブというプラネ番組を自作して、投影会までやってしまおうという大胆な組織(?)があるのです。

は！もそのメンバーに入れてもらって月に1度位の活動を仲間の人達と楽しんでいるところです。

今はその第3作目の制作にとりかかっているところです。

今回は広く一般の人からシナリオを公募し、それを元に番組を作っちゃえ！！という趣向でやってます。みなさんがこれを読むころにはシナリオも決定し、実際に番組作りの真最中だと思います。

(もしかしたら飲み会の真最中かも?)

和気あいあいと仲間が集まって活動しているので、どなたでも興味のある方は博物館職員に一声かけてください。そして参加してみてください。

(見学だけでもOKです)

それでは、暑い夏にまけないように、たまには夜空をながめて心の栄養補給をしましょう！！

(アストロクラブメンバー まるは！)



アストロクラブ制作番組のキャラクターたち

< 編集後記 >

博物館通信をちょこっとリニューアル。う～ん...まだまだ改良の余地がありそうですね。 tomo
気温 45 度という灼熱砂漠を体験しました。このおかげで、もしかしたら今年の夏は涼しく感じるかも？
なんて思ったのもつかの間、日本の蒸し暑さは灼熱砂漠以上だと実感している今日この頃です。 Yumi
今回、はじめて参加させてもらいました。味をしめてしまいそう、へへへ Maruha!

この博物館通信は、岡山天文博物館が作成しています。次回 秋号は 10 月ごろ 発行予定です。

岡山天文博物館 浅口市鴨方町本庄 3037-5 TEL・FAX 0865(44)2465 休館日：月曜・祝日の翌日

博物館ホームページ <http://www.rweb.ne.jp/astro/index.html>